

## 船舶事故調査報告書

平成26年10月30日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成26年5月25日（日） 10時55分ごろ
発生場所	千葉県浦安市の東京ディズニーリゾート南東方沖 浦安市所在の浦安沖灯標から真方位034° 450m付近 （概位 北緯35° 37.0′ 東経139° 53.8′）
事故調査の経過	平成26年5月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート シロギス、5トン未満 232-35048千葉、株式会社雄和 5.76m (Lr) × 1.96m × 1.01m、FRP ガソリン機関、58.80kW、平成14年1月
乗組員等に関する情報	船長 男性 50歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成26年2月28日 免許証交付日 平成26年2月28日 （平成31年2月27日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船外機のギヤボックスに亀裂、プロペラ翼の欠損、左舷外板に擦過傷等
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者2人を乗せ、東京ディズニーリゾート沖に向けて航行中、船長が、浦安沖灯標（南方位標識、以下「本件標識」という。）を視認したものの、本船の喫水が浅いので、本件標識の北方を航行しても問題がないものと思い、本件標識の北方を航行した。</p> <p>本船は、東京ディズニーリゾート沖で漂泊した後、帰ろうとした際、往航時と同様に思い、本件標識の北方を約5ノットの速力で東南東進中、平成26年5月25日10時55分ごろ「ガリガリ」と船底から音を発して乗り揚げた。</p> <p>船長は、船外機を停止し、チルトアップしたところ、ギヤボックスに亀裂が生じており、オイルが漏れていることを認め、千葉市所在のマリーナ（以下「本件マリーナ」という。）へ連絡した。</p> <p>船長は、本件マリーナから投錨するように助言を受け、船首から投</p>

	<p>錨したものの、本船が、南西の風に圧流されて走錨し、敷石があり、消波ブロックが層積みされている浦安市千鳥付近の岸壁に漂着した。</p> <p>本件マリナーから通報を受けて救援に向かった会員制救助組織は、救助艇により、本船をえい航しようとしたが、本船の船底が敷石に擦れており、破口を生じて沈没する可能性があったので、海上保安庁に通報した。</p> <p>本船は、満潮を待ち、来援した海上保安部の巡視艇の監視のもと、救助艇に引き出され、本件マリナーへえい航された。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南西、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1m、潮汐 上げ潮の中央期</p>
その他の事項	<p>船長は、小型船舶操縦士免許取得後、本事故時が初めての乗船であり、本船の操船も初めて行った。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.20m、船尾約0.28mであり、船外機のプロペラの翼端は海面下約0.8mであった。</p> <p>船長は、本件マリナーから貸与されたヨット・モーターボート用参考図及び本船のGPSプロッターを見ずに航行した。</p> <p>ヨット・モーターボート用参考図(H-171W)によれば、本事故発生場所周辺の水深は、0～5mと記載されている。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、東京ディズニーリゾート南東方沖を東南東進中、船長が、本件標識を視認したものの、本船の喫水が浅いので、航行しても問題がないものと思ひ込み、本件標識の北方を航行したことから、乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、ヨット・モーターボート用参考図及びGPSプロッターにより、船位及び水深を確認しながら、航行していれば、乗揚を回避できた可能性があると考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、東京ディズニーリゾート南東方沖を東南東進中、船長が、本件標識を視認したものの、航行しても問題がないものと思ひ込み、本件標識の北方を航行したため、乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・航行予定海域の水路状況を事前に調査すること。</li> <li>・ヨット・モーターボート用参考図、GPSプロッター等を活用し、定期的に船位を確認して航行すること。</li> </ul>

付図1 事故発生経過概略図

